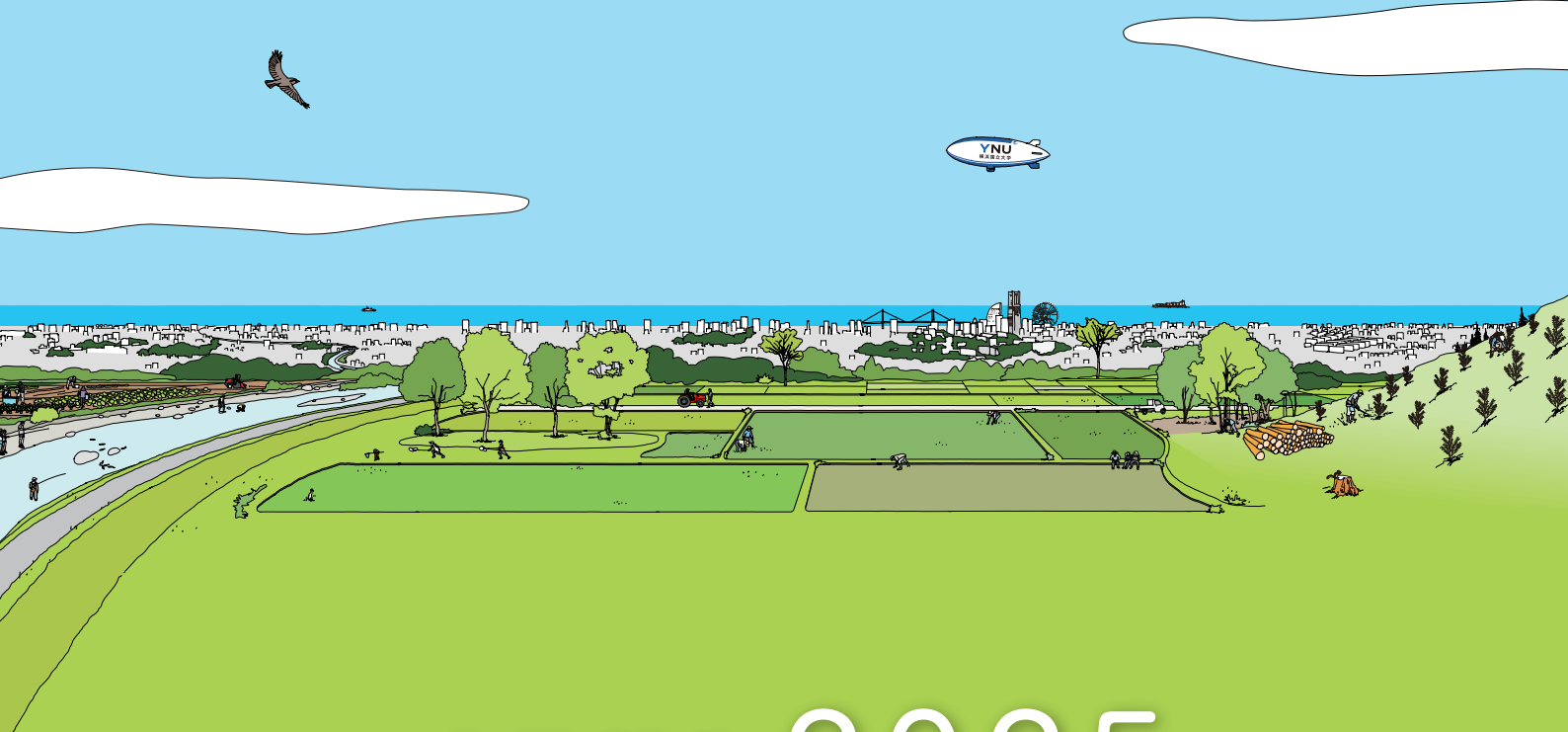


地域連携推進機構

Next Urban Lab



成果報告 2025

YNU 横浜国立大学
YOKOHAMA National University



地域
連携
推進
機構

Next Urban Lab

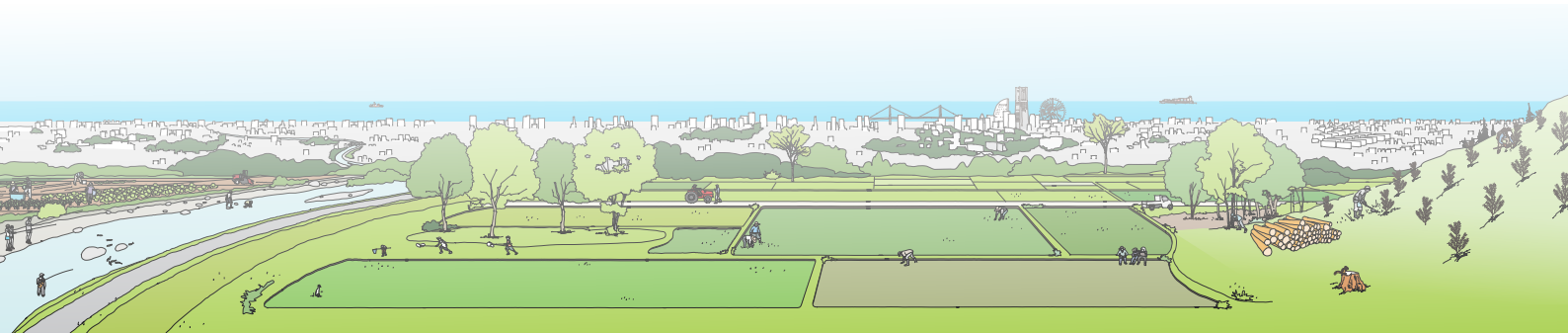
成果報告 2025

CONTENTS

ご挨拶	1
地域連携推進機構の目指す地域戦略	2
2025 年度の活動成果の概要	3

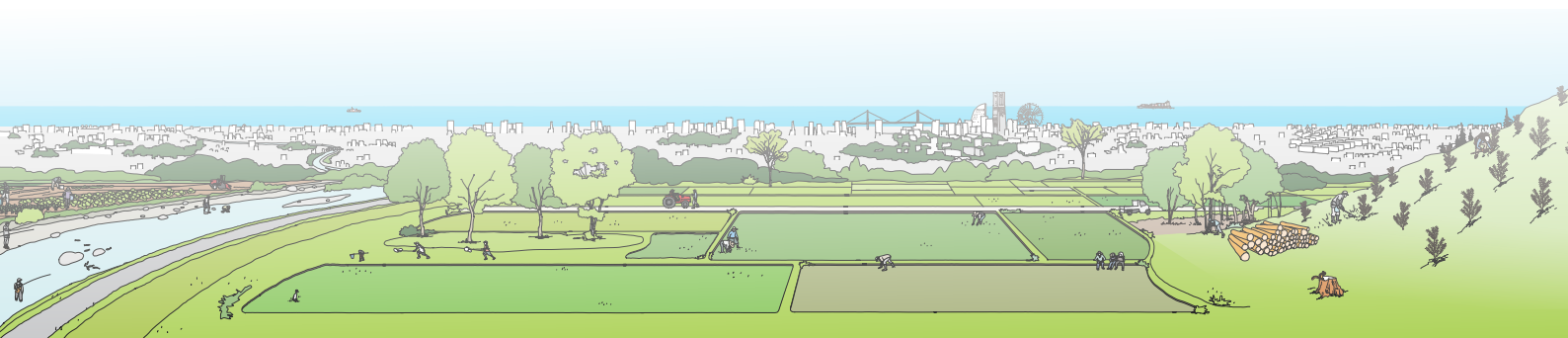
Next Urban Lab ユニット報告

1. エディブルガーデン・エディブルキャンパス	池島 祥文	5
2. 地域自治体と連携した統計データ構築と 神奈川・横浜の市区町村経済圏分析	居城 琢	7
3. かながわ観光・環境まちづくり	氏川 恵次	9
4. 横浜産学官共創推進ユニット	真鍋 誠司	11
5. 川崎市との協働にもとづく生活相談のデータ分析	古川知志雄	13
6. 神奈川県民のリーガルサービスの向上のための地域連携活動	渡邊 拓	15
7. 未来の都市空間を想定した自然共生型の 都市ランドスケープデザイン	佐々木雄大	17





8. 転ばないまちづくりのための技術融合型リビングラボ	島 圭介	19
9. 羽沢横浜国大駅周辺の地域交通	安部 遼祐	21
10. ヨコハマ型リノベーションの実践	江口 亨	23
11. 地域社会と芸術の関わりを考える	小田原のどか	25
12. 都市空間研究会	樽沼 範久	27
13. 里山ソーシャルデザイン	佐藤 峰	29
14. ポピュラー文化を利用したまち・地域の 2.5次元化プロジェクト	須川亜紀子	31
15. 子どもの成育環境デザイン	田中 稲子	33
16. 新音響文化研究会	中川 克志	35
17. プラネタリー・ヘルスユニット	藤掛 洋子	36
18. 常盤台まちづくり応援団	藤岡 泰寛	39
19. みなとみらい21地区における脱炭素まちづくり	吉田 聡	41
20. イノベーション創出を目指す学生の地域連携活動の プラットフォーム	為近 恵美	43
21. デジタル・ストーリーテリング (DST) を活用した 外国につながる生徒支援	半沢千絵美	45



ご挨拶

田中 稲子

地域連携推進機構長

横浜国立大学は、地域との連携を推進するために、2017年4月に地域連携推進機構を設置しました。それまでも、それぞれの学部や大学院、地域実践教育研究センター等が様々な地域との連携事業を行っていましたが、地域からみたときの窓口をより分かりやすくすること、また学内においても活動情報をより効果的に共有していくことなどの課題がありました。本機構には、これらの課題を解決し、「地域に信頼され、地域に支えられ、地域の発展を支援する」という横浜国立大学の地域戦略における3つの精神を軸に、本学の研究力や教育力を様々な地域課題解決に活かしながら大学として地域・社会に積極的に貢献する役割があります。

本機構の設置後、教員が自ら地域と関わる研究活動の推進と、これらを可視化して広く地域に発信するためのしくみである「ネクスト・アーバン・ラボ」を発足させ、活動を行ってきました。「ネクスト」には、「次世代の」という意味が込められています。複数の学内教員と行政・企業・NPOなどが連携して「ユニット」を構成し、多様な課題解決に取り組んでいます。本報告書は、2025年度の「ユニット」の取り組みをまとめたものです。

2022年度から第4期中期目標・中期計画期間に入り、本学が有する多様な学術知・実践知を駆使して、多角的に社会・地域課題の解決に取り組む体制、「社会・地域課題を発見・解決するプラットフォーム (Y-Plat)」を構築してきました。このプラットフォームでは、多様なステークホルダー（自治体、産業界、学校、市民等）と連携して、様々な社会・地域課題を発見し、本学の教員による分野横断型のチームが中心となり、「ネクストコラボレーション拠点 (NCC: Next Collaboration Core)」を通して課題解決策に取り組んでいます。同拠点は「ネクスト・アーバン・ラボ」を発展させる形で生み出されるものもあれば、新たな研究者チームを編成して取り組むこともあります。

このように、第4期4年目の現在、「ネクスト・アーバン・ラボ」の取り組みを一層発展させ、社会・地域の課題に向き合っております。ここに今年度の成果を共有し、多様な視点からご意見を賜ることで、社会・地域課題の解決により一層励む所存です。引き続き皆様のお力添えをお願い申し上げます。

地域連携推進機構の目指す地域戦略

地域連携推進機構は、地域連携活動および地域課題解決への先導的役割等を果たすとともに、地域社会と連携する中核拠点となるため、2017年4月に設置されました。地域に信頼され、地域に支えられ、地域の発展を支援するという、横浜国立大学の地域戦略における3つの精神を軸に、本学の研究力や教育力を地域問題解決へ還元し、大学として積極的に地域連携活動を推進していきます。

1 地域課題に実践的に取り組み、教育・研究成果を地域社会に還元します

地域社会が抱える課題を解決するため、本学の教育力及び研究力を総合的に発揮して実践的に取り組み、その成果を地域に還元します。

2 地域振興の核として諸機関・諸主体と連携した拠点を形成します

課題先進地域横浜・神奈川をフィールドに、自治体等の公的機関や民間企業、市民・NPO等との連携・協力によるオープンイノベーションで地域課題解決能力を高め、地域再生に向けた拠点を形成します。

3 地域に向けた人材育成及び人材還流を推進します

生涯学習及び公開講座などを通して、地域の教育、文化の向上・発展や多様な分野における人材育成及び人材還流に寄与します。

4 地域の産学官連携・産業振興に貢献します

共同研究・受託研究等による産業界や自治体との持続的な連携を重視するとともに、大学の有する知的・人的資源等を活用し、地域産業の振興及び地域社会の発展に寄与します。

5 地域課題への取り組みを通じて国際社会との連携・協力を進め成果をグローバルに発信します

国際機関、海外の研究機関や大学との共同研究やシンポジウム、多文化共生をめぐる地域の課題解決に向けた連携活動等により、グローバル時代の地域課題解決に取り組み、その成果を発信します。

成果の分類

『Next Urban Lab 成果報告 2017-2019』（以下、『17-19 報告』）より、成果を7つの分野に分け、整理しています。

- ① (地域で使える) マニュアル、評価手法技術等
- ② 地元自治体等への提言 (既に行ったもの)
- ③ 研究成果の地域への情報発信
- ④ 地域の中に活動拠点を置き地域活動を行った (〇〇ラボ、等)
- ⑤ 地域実践活動 (④のような拠点が無い場合)
- ⑥ 地域ネットワークの構築 (〇〇協議会、などの組織への参画やマネジメント等)
- ⑦ その他 (具体的に)

[2025年度各ユニット活動成果まとめ]

		エリア (羽沢横浜国大駅周辺(羽沢)/横浜都心/ 新湘南/県西/その他)	成果							
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
N e x t U r b a n L a b (令 和 7 年 度) ユ ニ ッ ト	1	エディブル	羽沢/県西					○	○	
	2	市区町村経済圏分析	横浜都心	○	○	○	○	○	○	○
	3	かながわ観光・環境	横浜都心/新湘南/県西			○		○	○	
	4	産学官共創	横浜都心			○	○		○	
	5	生活相談のデータ分析	その他	○	○	○		○	○	
	6	県民リーガル	羽沢/横浜都心/新湘南/県西/その他			○				
	7	都市ランドスケープ	羽沢/横浜都心/新湘南/県西	○		○				
	8	転ばないまち	羽沢/横浜都心/新湘南/県西	○	○	○	○	○	○	
	9	羽沢国大駅周辺交通計画	羽沢		○				○	○
	10	ヨコハマ型リノベ	横浜都心			○	○			○
	11	地域社会と芸術	その他			○		○	○	
	12	都市空間研究会	羽沢			○				
	13	里山ソーシャルデザイン	横浜都心/その他			○		○	○	
	14	2.5次元	羽沢			○		○		○
	15	子どもの成育環境	羽沢/その他			○		○		○
	16	新音響文化研究会	羽沢/横浜都心/新湘南/県西/その他	○			○			○
	17	プラネタリー・ヘルス	羽沢/その他		○	○	○		○	○
	18	常盤台まちづくり応援団	羽沢		○	○	○		○	○
	19	みなとみらい脱炭素	横浜都心	○		○				○
	20	イノベ学生地域連携	横浜都心/新湘南/県西		○	○		○	○	
	21	外国につながる生徒支援	横浜都心							○

活動エリアについて

2022年度から、第4期の新たな6年間の中期目標・中期計画期間に入りました。「Next Urban Lab」を「ネクストコラボレーション拠点(NCC)」へと進化させるべく、「羽沢横浜国大駅周辺」「横浜都心」「新湘南」「県西」の4つの地域を重点エリアとしています。

令和7年度 地域連携推進機構「Next Urban Lab」ユニット成果概要

1	エディブルガーデン・エディブルキャンパス	池島 祥文
2	地域自治体と連携した統計データ構築と神奈川・横浜の市区町村経済圏分析	居城 琢
3	かながわ観光・環境まちづくり	氏川 恵次
4	横浜産学官共創推進ユニット	真鍋 誠司
5	川崎市との協働にもとづく生活相談のデータ分析	古川知志雄
6	神奈川県民のリーガルサービスの向上のための地域連携活動	渡邊 拓
7	未来の都市空間を想定した自然共生型の都市ランドスケープデザイン	佐々木雄大
8	転ばないまちづくりのための技術融合型リビングラボ	島 圭介
9	羽沢横浜国大駅周辺の地域交通	安部 遼祐
10	ヨコハマ型リノベーションの実践	江口 亨
11	地域社会と芸術の関わりを考える	小田原のどか
12	都市空間研究会	樽沼 範久
13	里山ソーシャルデザイン	佐藤 峰
14	ポピュラー文化を利用したまち・地域の2.5次元化プロジェクト	須川亜紀子
15	子どもの成育環境デザイン	田中 稲子
16	新音響文化研究会	中川 克志
17	プラネタリー・ヘルスユニット	藤掛 洋子
18	常盤台まちづくり応援団	藤岡 泰寛
19	みなとみらい21地区における脱炭素まちづくり	吉田 聡
20	イノベーション創出を目指す学生の地域連携活動のプラットフォーム	為近 恵美
21	デジタル・ストーリーテリング（DST）を活用した外国につながる生徒支援	半沢千絵美

UNIT
1

エディブルガーデン・ エディブルキャンパス

事業の総括責任者 ● 池島 祥文 国際社会科学研究院

学内分担者・
学外協力者 ● 下出 信次 環境情報研究院
● 有吉 亮 LocaliST
● 西岡 隆暢 LocaliST
● 鈴木 勉 edn101

1 令和7年度の活動内容

エディブル概念を活用した地域と大学との架け橋づくりの一環として、(1) 植栽ポッドにおけるエディブル素材の試験的栽培、(2) 地域との寄植イベントの実施、(3) 水産資源の利用検討を進めた。

昨年度から構想しているエディブルウェイ企画については、地元町内会との調整の結果、通学ルート上でのポッド配置が難しいこととなり、再度、方向性については検討し直す必要がある。一方で、地域と共同でエディブル環境を構築していく取り組みについては、神奈川区との共同イベント実施等を含め、実現してきている。また、臨海環境センターでの藻場再生の取り組みを、エディブル概念と組み合わせるため、視察を実施するなど、その準備を進めた。



2 | 令和7年度の活動がもたらした地域への貢献

地域	番号	① マニュアル 等	② 提言	③ 情報発信	④ 拠点での地 域活動	⑤ 地域実践活 動(④以外)	⑥ ネットワーク 構築	⑦ その他
横浜都心エリア								
新湘南エリア								
羽沢エリア						○		
県西エリア						○		
その他								

3 | ホームページアドレス等

なし

4 | 主要連携先

UNIT
2

地域自治体と連携した統計データ構築と神奈川・横浜の市区町村経済圏分析

事業の総括責任者 ● 居城 琢 国際社会科学研究院

学内分担者・学外協力者 ● シュレストナゲンドラ 国際社会科学研究院

1 | 令和7年度の活動内容

自治体と連携した、地域分析を行ってきた。2025年12月5日に神奈川県統計センターを訪問し、学生の研究発表会を開催し、県の職員との議論を行った。当日の発表会の様子は、経済学部のHPにて広報している

<https://www.econ.ynu.ac.jp/hus/econ/32913/>

横浜市港湾局との間と連携して、学生研究を進めた。横浜市港湾局が本学を訪問し、立ち上げを行った。当日の様子は経済学部のHPにて下記のように公開した。

<https://www.econ.ynu.ac.jp/hus/econ/34283/>

2月に最終報告会を予定している。

神奈川県観光課と連携し、神奈川県観光による経済効果の研究を進めた。1回の中間報告会を行い、2月に最終報告会を予定している。

2 | 令和7年度の活動がもたらした地域への貢献

地域	番号	① マニュアル等	② 提言	③ 情報発信	④ 拠点での地域活動	⑤ 地域実践活動(④以外)	⑥ ネットワーク構築	⑦ その他
横浜都心エリア		○	○	○	○	○	○	○
新湘南エリア								
羽沢エリア								
県西エリア								
その他								

3 | ホームページアドレス等

<https://www.econ.ynu.ac.jp/hus/econ/34283/>

4 | 主要連携先

- 神奈川県統計センター
- 横浜市港湾局

UNIT
3

かながわ観光・環境まちづくり

事業の総括責任者 ● 氏川 恵次 国際社会科学研究院

学内分担者・
学外協力者 ● 張 馨元 国際社会科学研究院
● 加藤 郁夫 株式会社国際開発センター

1 | 令和7年度の活動内容

令和7年度も、県西地域の各団体と連携して、自然資源を活用したツーリズムを通じてのまちづくりおよび地域連携の推進を試みた。とくに森林浴の学術的知見を活用した社会実装も取り組んだ。また横浜市の行政・企業・市民等と連携した環境課題解決事業も継続的に推進した。さらに新湘南エリアにもかかわる、鎌倉市において、脱炭素かまくら市民会議を発展させて、当地での環境・観光に配慮したまちづくりを検証した。

2 | 令和7年度の活動がもたらした地域への貢献

地域	番号	① マニュアル等	② 提言	③ 情報発信	④ 拠点での地域活動	⑤ 地域実践活動(④以外)	⑥ ネットワーク構築	⑦ その他
横浜都心エリア				○		○	○	
新湘南エリア				○		○	○	
羽沢エリア								
県西エリア				○		○	○	
その他								

③横浜都心エリア、新湘南エリア、県西エリアでの、各研究成果の発信、⑤横浜都心エリア、新湘南エリア、県西エリアでの行政市等と連携した地域実践活動、⑥横浜都心エリア、新湘南エリア、県西エリアで、各々、横浜市地球温暖化対策推進協議会及び関内まちづくり振興会、脱炭素かまくら実行委員会、あしがら地域振興協会に参画、を行った。

3 | ホームページアドレス等

なし

4 | 主要連携先

- 横浜市脱炭素・GREEN × EXPO 推進局
- 横浜市地球温暖化対策推進協議会
- 関内まちづくり振興会
- 脱炭素かまくら実行委員会
- あしがら地域振興協会

UNIT
4

横浜産学官共創推進ユニット

事業の総括責任者 ●真鍋 誠司 国際社会科学研究院

学内分担者・
学外協力者 ●丸尾 昭二 工学研究院
●大野 秀敏 総合学術高等研究院
●前畑 英雄 東京農工大学 先端産学連携研究推進センター

1 | 令和7年度の活動内容

令和7年度は、保土ヶ谷地域における経営学の学びを促進するため、星天クレイにて、「ゼロから学ぶドラッカーの経営学」のワークショップを開催した。経営学が会社だけでなく、日常の仕事にも役立つことを中心に、学習を図った。また、星天クレイをロケ地に、地域の姿を映画として制作するプロジェクト（『移ろう物たち』制作プロジェクト）にも協力し、統括責任者の真鍋は監督として参加した。成果である映画は、12月20日-26日にミニシアターで上映された。

2 | 令和7年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	① マニュアル等	② 提言	③ 情報発信	④ 拠点での地域活動	⑤ 地域実践活動(④以外)	⑥ ネットワーク構築	⑦ その他
横浜都心エリア			○	○		○	
新湘南エリア							
羽沢エリア							
県西エリア							
その他							

(関連資料)

「ゼロから学ぶドラッカーの経営学」ワークショップ

<https://www.hoshiten-qalay.com/magazine/2143/>

「移ろう物たち」

<https://www.jackandbetty.net/cinema/detail/3912/>

3 | ホームページアドレス等

<https://www.chiiki.ynu.ac.jp/nexturbanlab/000538.html>

4 | 主要連携先

- 株式会社ルートデザイン
- 相鉄アーバンクリエイティブ
- YADOKARI 株式会社

UNIT

5

川崎市との協働にもとづく 生活相談のデータ分析

事業の総括責任者

● 古川知志雄 大学院国際社会科学研究院

学内分担者・
学外協力者● 相馬 尚人 大学院国際社会科学研究院
● 深井 太洋 学習院大学経済学部

1 | 令和7年度の活動内容

本取り組みでは、川崎市生活自立・仕事相談センター（以下、「川崎市だいJOBセンター」）より提供いただいた2016年から2023年までの7年間にわたる相談データ（相談者数および相談内容等）を用い、横浜国立大学の学生合計12名とともに、約1年半にわたり分析を実施いたしました。

分析過程においては、川崎市だいJOBセンター職員および川崎市職員の方々に本学へお越しいただき、データの読み取り方や政策的含意について複数回の意見交換を行いました。また、学生が現地を訪問し、支援現場の実情について直接理解を深める機会も設けました。これらの双方向的な対話を通じて、実務と統計分析を接続する形で研究を進めることができました。

学生は週3時間の定例プログラミング会を継続し、4～6名の少人数グループでプログラミングおよび統計分析を進めました。試行錯誤を重ねながら分析の精度を高め、提出期限であった2025年6月までに成果を報告書として取りまとめることができました。

本年度は、川崎市において生活自立・仕事相談支援事業の予算策定が行われる重要な年でもありました。とりわけ、現場で共有されていた「支援の長期化・困難化」という仮説について、相談データを用いた検証を行い、統計的根拠に基づく資料を政策議論のために提供することができました。本事業は、実証分析を通じて政策形成過程に資する知見を提供するとともに、学生にとっても実社会の課題に向き合う貴重な学習機会となりました。

2 | 令和7年度の活動がもたらした地域への貢献

地域	番号	① マニュアル 等	② 提言	③ 情報発信	④ 拠点での地 域活動	⑤ 地域実践活 動(④以外)	⑥ ネットワーク 構築	⑦ その他
横浜都心エリア								
新湘南エリア								
羽沢エリア								
県西エリア								
その他		○	○	○		○	○	

<関連資料>

個人情報などの秘匿性の高い情報を扱ったため公開不可

3 | ホームページアドレス等

なし

4 | 主要連携先

- 中高年事業団やまて企業組合川崎支店

UNIT
6

神奈川県民のリーガルサービスの向上のための地域連携活動

事業の総括責任者

● 渡邊 拓 国際社会科学研究院

学内分担者・
学外協力者

- 笹岡 愛美 国際社会科学研究院
- 石崎由希子 国際社会科学研究院
- 小池 治 本学名誉教授
- 余 乾生 長崎国際大学助教
- 櫻井 幸男 本学博士後期課程修了生

1 | 令和7年度の活動内容

2025年12月10日に、本ユニット事業責任者の渡邊拓教授により、「最近の民事判例解説」というテーマで、本学と神奈川県弁護士会との共催研修会をオンラインで実施し、大変好評であった。

2025年8月21日（木）（10:30~12:00）に、「韓国ホスピス延命医療決定法施行」というテーマで、横浜法学会で開催された、仁荷大学校法学専門大学院教授の朴仁煥氏の講演会に協力した。

2025年9月22日（月）（13:00~14:30）に、本ユニットと横浜 ELSI 研究会との共催の令和7年度第1回オンラインセミナーとして、「遺伝子差別（Genetic Discrimination）の状況と日本との比較などについて、最近の質問紙調査の結果」というテーマで、高橋しづこ氏（シンガポール国立大学 MOH-CENTERS 研究フェロー、医学博士、産婦人科専門医、臨床遺伝専門医）にご講演をいただいた。

2025年11月17日（月）（13:00~14:30）に、横浜 ELSI 研究会で開催された、岡田 就将 氏（東京科学大学（旧 東京医科歯科大学）大学院医歯学総合研究科政策科学分野教授）の「我が国の医療政策の形成プロセス－実務の視点から－」というテーマの講演会の開催に協力した。

いずれのセミナーも参加者を交えて活発な議論があり大変盛況であった。

2 | 令和7年度の活動がもたらした地域への貢献

地域	番号	① マニュアル 等	② 提言	③ 情報発信	④ 拠点での地 域活動	⑤ 地域実践活 動(④以外)	⑥ ネットワーク 構築	⑦ その他
横浜都心エリア				○				
新湘南エリア				○				
羽沢エリア				○				
県西エリア				○				
その他				○				

神奈川県弁護士会所属の弁護士の研修に協力することで、神奈川県民のリーガルサービスの向上に貢献した。

また、医療関係のオンラインセミナーを開催することにより、神奈川県民の医療に関する情報提供に貢献した。

3 | ホームページアドレス等

- 横浜 ELSI 研究会
<https://yokohama-elsi.ynu.jp/>
- 横浜法学会
<https://www.iblaw.ynu.ac.jp/group/research/join/study/index.html>

4 | 主要連携先

- 神奈川県弁護士会

UNIT
7

未来の都市空間を想定した自然共生型の都市ランドスケープデザイン

事業の総括責任者 ● 佐々木雄大 環境情報研究院

学内分担者・学外協力者

- 小池 文人 環境情報研究院
- 鏡味麻衣子 環境情報研究院
- 稲垣 景子 都市イノベーション研究院
- 矢吹 剣一 都市イノベーション研究院
- 松行 美帆子 都市イノベーション研究院
- 奥山 尚子 環境情報研究院
- 飯田 晶子 東大・院・工学系研究科
- 田中 貴宏 広大・院・先進理工系科学研究科

1 | 令和7年度の活動内容

近い将来、東京－横浜のような大都市でも、人口の減少が顕著になる「都市の縮退 (urban shrinkage)」が進むことが予想される。都市の縮退に伴って、既存市街地内の未利用地の増加、都市における人と自然の関係性の変化、都市空間の再編に伴う防災のあり方の変容などの問題が顕著になることが想定され、都市ランドスケープデザインに関わる発想の転換や新たなイノベーションが求められている。本ユニットでは、横浜市全域および東京－横浜大都市域を対象に、未来の都市空間のあり方について、研究教育活動を行ってきた。令和7年度は、対象地域を全球に拡張した研究費の獲得に成功した。当該研究費には、ユニットメンバー全員が参画し、発展的な研究教育を行っている。また、関連研究を5編発表した。

2 | 令和7年度の活動がもたらした地域への貢献

地域	番号	① マニュアル等	② 提言	③ 情報発信	④ 拠点での地域活動	⑤ 地域実践活動(④以外)	⑥ ネットワーク構築	⑦ その他
横浜都心エリア		○		○				
新湘南エリア		○		○				
羽沢エリア		○		○				
県西エリア		○		○				
その他								

本年度は、研究費の獲得に成功し、メンバー全員での研究活動が大きく加速した。当該研究費では、都市縮退 (urban shrinkage) に関わる全球的な現象に焦点を当てている。都市縮退は、都市における自然共生を実現するための空間再編のチャンスであるが、その知識基盤となる都市縮退理論が存在しない。グローバルスケールで都市縮退の都市経済・生物多様性への帰結を可視化し、都市縮退理論の新たな構築を目指すことを目的としている。当該研究費課題で得られる知見は、全球を対象とした汎用性の高い一般的知見となる可能性が高い。その一方で、これらの知見を横浜市・神奈川県を中心とする地域へ還元できる可能性も非常に高い。当ユニットに関する研究・教育活動の一環として、当ユニットの教員の指導学生あるいはポスドクが主著とする国際学術論文が5報公表(下記)された。

<公表論文>

1. [Yadav, H., Iwachido, Y., Phartyal, S., & Sasaki, T. \(2025\) Urbanization and habitat diversity promote endozoochorous seed dispersal by raccoon dogs within forest fragments in Tokyo. *Ecology and Evolution*, e72516.](#)
2. [Yadav, H., Iwachido, Y., & Sasaki, T. \(2025\) Canopy cover instigating feces deposition on paved roads in urban areas. *Ecological Research*, e70009.](#)
3. [Tomitaka, M., Takano, Y., Suzuki, M., & Sasaki, T. \(2025\) Shifting roles of urban greenspace types in supporting subjective well-being before and during the COVID-19 pandemic. *Wellbeing, Space & Society*, 9, 100284.](#)
4. [Yadav, H., Iwachido, Y., Phartyal, S.S. & Sasaki, T. \(2025\) Endozoochorous seed dispersal in urban ecosystems: A global review of patterns, interactions, and knowledge gaps. *Urban Ecosystems*, 28, 108.](#)
5. [Iwachido, Y., Yamamoto, S., Sun, X. & Sasaki, T. \(2025\) Temporal biotic homogenisation patterns due to urbanisation are taxon-dependent. *Diversity and Distributions*, 31, 70014.](#)

3 | ホームページアドレス等

<http://www.sasa-lab.ynu.ac.jp/pukiwiki-151/?Next+Urban+Lab>

4 | 主要連携先

- 横浜市財政局
- 環境創造局
- よこはま動物園

UNIT
8

転ばないまちづくりのための 技術融合型リビングラボ

事業の総括責任者 ● 島 圭介 環境情報研究院

学内分担者・
学外協力者

- 大沼 雅也 国際社会科学研究院
- 藤岡 泰寛 都市イノベーション研究院
- 田中 稲子 都市イノベーション研究院
- 王 天一 総合学術高等研究院
- 下野 誠通 工学研究院
- 福田 淳二 工学研究院
- 泉 真由子 教育学研究科
- 学外連携先 ユニコムプラザさがみはら
- 学外連携先 神奈川県ヘルスケアニューフロンティア
- 学外連携先 横浜銀行

1 | 令和7年度の活動内容

ロコモティブシンドロームやフレイルなどの高齢者の身体的機能低下と転倒事故が社会的課題となっている。本ラボでは、高齢者の転倒防止技術の社会実装を目指し、リビングラボにおける様々な対話的試行を通じて、大学および地域の多様なステークホルダーとの相互理解を促進しながら、技術開発の方向性や社会への導入方法を模索するものである。これにより、技術分野・社会分野が融合した未来志向の「転ばないまちづくり」を実現することを目指している。具体的に取り扱う技術としては、ウェアラブル機器を活用したヒト機能評価技術（転倒・骨折リスク測定法など）、ヒト機能拡張・支援技術（歩行支援装置や環境制御装置など）、転倒防止に結びつく住環境改善技術の三つのカテゴリーに分類される。これらの技術を活用し、地域住民に対する情報発信や意識改革を推進し、転倒予防の社会実装を目指した活動を継続的に実施した。

2 | 令和7年度の活動がもたらした地域への貢献

地域	番号	① マニュアル等	② 提言	③ 情報発信	④ 拠点での地域活動	⑤ 地域実践活動(④以外)	⑥ ネットワーク構築	⑦ その他
横浜都心エリア				○		○		
新湘南エリア					○			
羽沢エリア		○	○	○	○	○	○	
県西エリア		○	○	○	○			
その他								

転倒防止技術の社会実装を検討するため、本学や近隣地域のリビングラボを活用した。リビングラボにおいては多様なステークホルダーとプロジェクトメンバーが対話を重ねることで、超高齢社会に備えた住民の自覚向上を図ることが期待される。また、丘陵地帯が多く、坂道や階段が点在し、転倒リスクが高い横浜の住宅地において、安全なまちづくりに貢献することを目的としている。活動地域については、令和6年度までに構築した連携先（横浜市常盤台・左近山、鎌倉市今泉台、相模原市、新湘南キャンパスなど）に加え、第4期中期目標・中期計画の重点地域（湘南地域）での活動を中心として、リビングラボの開催や地域住民への最先端技術の情報発信を継続推進した。さらに、常盤台・釜台・羽沢地区の保土ヶ谷中央病院、二つ台みーとみーとと連携し、ワークショップの定期開催、地域住民の技術発信、意識改革と課題抽出、今後の連携の模索を行った。

本年度の主な活動として、高齢者の転倒防止に向けた立位年齢計測会や実証実験、講演会の実施を中心に、多様な地域・機関と連携しながら取り組みを進めた。市沢地区主催のイベントにおいて立位年齢計測会を実施し、転倒予防に関する啓もう活動を実施した。また新湘南キャンパスにおいて「てくてくてくワークショップ」が開催され、昨年に続いた立位年齢計測会を実施して地域住民との交流や行動変容のための取り組みを精力的に行った。ユニコムプラザさがみはらにおける情報発信、計測会の実施、湘南アイパークウェルビーイングフェスタにおいても同様の計測会や体験イベントを実施し、地域住民の健康維持・転倒予防に向けた情報発信、ならびにさらなる連携活動に向けた取り組みを推進している。今後も1月31日～2月1日にYOXO-FES2026の出展などを予定している。県外の活動としては、昨年に引き続き、広島県尾道市や福山市において高齢者を対象とした実証実験を推進し、継続的に体操を取り組む地域貢献活動を推進した。これらの活動を通じて、高齢者の転倒予防に向けた技術の社会実装を推進するとともに、さらに地域住民との対話を深め、より実践的な取り組みへと発展させていく。

3 | ホームページアドレス等

- BSD 拠点

<https://bsd.ynu.ac.jp/>

4 | 主要連携先

- ユニコムプラザさがみはら
- 常盤台地域ケアプラザ
- 左近山地域ケアプラザ
- 横浜銀行
- 二つ台みーとみーと
- 保土ヶ谷中央病院

UNIT
9

羽沢横浜国大駅周辺の地域交通

事業の総括責任者 ● 安部 遼祐 都市イノベーション研究院

学内分担者・
学外協力者 ● 田中 伸治 都市イノベーション研究院
● 松行美帆子 都市イノベーション研究院
● 五十嵐達哉 建設技術研究所東京本社交通システム部

1 | 令和7年度の活動内容

本ユニットでは、横浜国立大学キャンパスを含む羽沢横浜国大駅周辺地域を対象に、地域交通に関する研究調査を行っている。

令和7年度は、同地域におけるオンデマンド交通について、以下の活動を行った。

- ・ オンデマンド交通導入に向けた関係者との意見交換、情報提供、各種調整
- ・ サービス設計に向けた同地域の交通エージェントベースモデルの初期構築
- ・ 住民調査データを用いた移動困難度（認知上のアクセシビリティ）の分析
- ・ 関連研究成果の発表

今後、住民調査から得られた地域内の移動（OD）パターンもモデルに組み込み、エージェントベースモデルの構築を完了し、オンデマンド交通のサービス設計に貢献することを目指す。

2 | 令和7年度の活動がもたらした地域への貢献

地域	番号	① マニュアル 等	② 提言	③ 情報発信	④ 拠点での地 域活動	⑤ 地域実践活 動(④以外)	⑥ ネットワーク 構築	⑦ その他
横浜都心エリア								
新湘南エリア								
羽沢エリア			○				○	○
県西エリア								
その他								

②⑥ 羽沢横浜国大周辺地域のオンデマンド交通導入に向け各種の助言や調整を行った。

⑦ 研究成果の発表

- ・ Shiraiwa, M. and R. Abe (2026) . Preferences for On-Demand Transportation as a Last-Mile Mode Considering Weather and Time Urgency: A Stated Choice Approach, *Travel Behaviour and Society*, Vol. 44, 101250. <https://doi.org/10.1016/j.tbs.2026.101250>

- ・舟本耀・安部遼祐・白岩元彦（2025）“端末交通手段としてのオンデマンド交通の導入が代表交通手段選択に与える影響に関する研究”，第72回土木計画学研究発表会・講演集，福井工業大学，2025年11月.
- ・家護谷駿・安部遼祐（2025）“アクティビティシミュレータを用いたバス減便の影響評価”，第72回土木計画学研究発表会・講演集，福井工業大学，2025年11月.

3 | ホームページアドレス等

<https://www.chiiki.ynu.ac.jp/nexturbanlab/000312.html>

4 | 主要連携先

- 横浜市都市整備局
- 北陸 SDG s 総合研究所

UNIT
10

ヨコハマ型リノベーションの実践

事業の総括責任者 ● 江口 亨 都市イノベーション研究院

学内分担者・
学外協力者 ● 藤岡 泰寛 都市イノベーション研究院
● 加藤 功甫 Connection of the Children

1 | 令和7年度の活動内容

本ユニットの活動の目的は、本学周辺地域にある団体や不動産オーナーと連携して既存の建物を活用し、その地域の価値を上げることである。2017年に開始した地域課題実習で対象としていた「casaco」でのプロジェクトをもとに、2018年度からはNULとしての活動を開始した。令和7年度は、これまで同様に学生が主体として地域住民等との定期的なイベントを実施しつつ、要望を受けて、建物の入口にDIYで靴箱を製作し、また、土間にウッドデッキを新設して利用者の利便性向上を図った。このように、試行錯誤しながら地域に根ざした活動を行った。

2 | 令和7年度の活動がもたらした地域への貢献

地域	番号	① マニュアル 等	② 提言	③ 情報発信	④ 拠点での地 域活動	⑤ 地域実践活 動(④以外)	⑥ ネットワーク 構築	⑦ その他
横浜都心エリア				○	○			○
新湘南エリア								
羽沢エリア								
県西エリア								
その他								

- 【③】 学生の活動を紹介する機会として、学外協力者が発行している地域内の約400世帯に配布している「野毛山新聞」というエリアマガジンに学生が毎月連載を行い、またinstagramでイベントの広報を行うなど、NULの情報発信を続けている。
- 【④】 拠点であるcasacoでの学生活動に対する住民の認識度が向上している。今年度は留学生を対象とした「留学生の夕飯づくり」という週1回のイベントを春学期と秋学期開催した。また、不定期に地域の子供たちとワークショップを行うなど、交流を図った。
- 【⑦】 casacoは賃貸住宅であり、主に海外からの留学生を受け入れている。その賃貸住宅のゴミ捨てや住民とのコミュニケーションなどのマネジメントの一部を学生が担っており、建築の維持管理と国際交流の経験を積んでいる。casacoは古い木造の賃貸住宅であり、留学生を始めとした住民や運営組織が建物に手を入れ続けており、空間デザインのノウハウを蓄積している。その環境をお借りして、学生が座学で学んだことなどをまちづくりの実

践の場で活かし、試行錯誤をする機会を得ている。

3 | ホームページアドレス等

なし

4 | 主要連携先

- 学外協力者である、加藤 功甫 (Connection of the Children)

UNIT
11

地域社会と芸術の関わりを考える

事業の総括責任者 ● 小田原のどか 都市イノベーション研究院

学内分担者・
学外協力者 ● 平野 恵子 都市イノベーション研究院
● 三浦 倫平 都市イノベーション研究院
● 小泉 明郎 現代美術家
● 渡辺 篤 現代美術家・社会活動家

1 | 令和7年度の活動内容

令和7年度は、「地域社会と芸術の関わりを考える」の初年度であり、プロジェクトを推進するための下地をつくることに注力した1年間であった。具体的には、対象地域とした弘明寺町を舞台に、多様なステークホルダーのネットワーキングを行うため、2026年1月31日・2月1日の2日間でフォーラム（リレートーク＋展示）を実施した。ここでは、弘明寺商店街理事長、弘明寺副住職、南区に拠点を置くNPO法人代表者、弘明寺商店街で創業した喫茶店・不動産業・写真スタジオ・惣菜店などの店主、特別支援学校の学校長、横浜市南区図書館司書、横浜市職員、そして本ユニットがテーマとする「芸術」に関わる方々として弘明寺町に拠点を置く建築家・芸術家・漫画家など27名が登壇し、弘明寺町に関わる活動の報告を通じてネットワーキングを行い、大学との連携についての合意形成の基盤をつくった。こうした試みは地域で初めてのことであり、商店街からも好意的に受け入れられ、タウンニュースに記事化されるに至った。今年度培った地域との信頼を背景に、次年度はさらなる地域連携を進める。

2 | 令和7年度の活動がもたらした地域への貢献

地域	番号	① マニュアル等	② 提言	③ 情報発信	④ 拠点での地域活動	⑤ 地域実践活動(④以外)	⑥ ネットワーク構築	⑦ その他
横浜都心エリア								
新湘南エリア								
羽沢エリア								
県西エリア								
その他				○		○	○	

2026年1月31日・2月1日の2日間で開催したフォーラム（リレートーク＋展示）によるネットワーキングは、同じ地域に拠点を置きながらも一度も対話をしたことがない方々の交流の場となり、瑞應山蓮華院弘明寺、商店街理事会、本学付属学校の代表者たちをつなぐ機会となったという点で、貢献があったと考える。

< 関連資料 >

- ウェブ版美術手帖での活動紹介記事
<https://bijutsutecho.com/magazine/news/headline/30748>
- タウンニュースでの活動紹介記事
<https://www.townnews.co.jp/0113/2026/01/22/821399.html>

3 | ホームページアドレス等

<https://www.chiiki.ynu.ac.jp/map/000563.html>
<https://www.iamhere-project.org/gumyoji-talk-2026>

4 | 主要連携先

- 株式会社泰有社
- マチノテコ
- アートスタジオアイムヒア
- 弘明寺商店街理事会
- 瑞應山蓮華院弘明寺
- 横浜市南区図書館

UNIT
12

都市空間研究会

事業の総括責任者 ● 樽沼 範久 都市イノベーション

学内分担者・
学外協力者

- カルパントラ ファビアン 都市イノベーション
- 齊藤 麻人 都市イノベーション
- 彦江 智弘 都市イノベーション
- 三浦 倫平 都市イノベーション
- 守田 正志 都市イノベーション
- 多和田雅保 先進実践学環
- 吉原 直樹 東北大学名誉教授

1 | 令和7年度の活動内容

古代から現代に至る「都市的」内陸地域をめぐる研究を主軸とした今年度の都市空間研究会では、上記の責任者・分担者・協力者に限定しない開かれた都市空間研究会を学内で5回、そしてYNU BASE HAZAWAで1回の計6回開催した。前者は都市の起源を再考する問題提起（樽沼 5/28）、近世日本内陸都市の歴史と構造の新知見叙述（多和田 6/25）、人・モノ・自然のアッサンブラージュに着目した都市「コモン」をめぐる運動の「存在論的転回」叙述（三浦 10/8）、宝塚研究の現在叙述（朴 11/5）、インドネシアからの移住労働者と「技能化」をめぐる問題提起（平野）、後者は後述する特別講師2名を招き、アメリカ合衆国の都市社会と国家について討議した。

2. 令和7年度の活動がもたらした地域への貢献

地域	番号	① マニュアル 等	② 提言	③ 情報発信	④ 拠点での地 域活動	⑤ 地域実践活 動(④以外)	⑥ ネットワーク 構築	⑦ その他
横浜都心エリア								
新湘南エリア								
羽沢エリア				○				
県西エリア								
その他								

松原宏之氏（立教大学アメリカ研究センター教授）、矢作弘氏（龍谷大学教授、元日本経済新聞ロサンゼルス支局長）を特別講師として招き、ニューヨークやミネアポリスなどに代表される揺れるアメリカ合衆国の都市社会と国家、そして合衆国外の都市社会と国家の現在と近未来への展望を討議する今年度最終回の都市空間研究会を、YNU BASE HAZAWAにて開催した。

3 | ホームページアドレス等

設置検討中

4 | 主要連携先

- 松原宏之（立教大学アメリカ研究センター教授）
- 矢作弘（龍谷大学教授、元日本経済新聞ロサンゼルス支局長）

UNIT
13

里山ソーシャルデザイン

事業の総括責任者 ● 佐藤 峰 都市イノベーション研究院

学内分担者・
学外協力者

- 倉田 薫子 教育学部
- 小林 誉明 国際社会科学研究院
- 池口 明子 教育学部
- 永森 昌志 ヤマナハウス
- 川島 範子 おだわらイノシカネット
- 山下ジュリア真由美 愛川国際交流クラブ

1 | 令和7年度の活動内容

- ① 社会構想：1) 神奈川県里地里山保全協議会への提言
- ② 社会実装：1) U35（若者世代）の複数拠点居住・移住支援プログラムの開発（南房総 Yamana House、みずほ総研との共同）、2)（デジタルストーリーテリング）を使用した調査実施への研修参加
- ③ 調査研究：1) 国際開発学会広島大会における口頭発表

2 | 令和7年度の活動がもたらした地域への貢献

地域	番号	① マニュアル等	② 提言	③ 情報発信	④ 拠点での地域活動	⑤ 地域実践活動(④以外)	⑥ ネットワーク構築	⑦ その他
横浜都心エリア						○		
新湘南エリア								
羽沢エリア								
県西エリア								
その他				○		○	○	

③として国際開発学会広島大会における口頭発表、⑤としてU35（若者世代）の複数拠点居住・移住支援プログラムの開発（ヤマナハウス、みずほ総研との共同）、2) DST（デジタルストーリーテリング）を使用した調査実施への研修参加、⑥として神奈川県里地里山保全協議会への提言を行った。

3 | ホームページアドレス等

なし

4 | 主要連携先

- ヤマナハウス

UNIT
14

ポピュラー文化を利用したまち・地域の2.5次元化プロジェクト

事業の総括責任者 ● 須川亜紀子 都市イノベーション研究院

学内分担者・
学外協力者 ● 三浦 倫平 都市イノベーション研究院
● 平野 恵子 都市イノベーション研究院
● 辻 大和 東京大学東洋文化研究所
● 原 智弘 帝京大学外国語学部

1 | 令和7年度の活動内容

本プロジェクトの目的は、2019年度に始動したNULの「ポピュラー文化を活用した羽沢横国大駅・大学間通学路の2.5次元化プロジェクト」の継続プロジェクトとして、ポピュラー文化を利用し、横国大周辺羽沢地区を中心とする街の歴史を基礎とした地域の文化資源の「ものがたり」を可視化し、コンテンツ化していくことで、地域の魅力を再発見する仕組みや仕掛けを促す活動を行うことである。

2025年度に行った活動は、以下の通りである。

- ① 常盤台地区連合町内会会長石川源七氏のインタビューに基づいた研究ノートを、都市イノベーション研究院の紀要『常盤台人間文化叢論11』に掲載した（2026年3月発行）。同叢論は、横浜国立大学リポジトリで一般公開されている。
- ② 都市科学部都市社会共生学科須川スタジオの学生18名によるキャラクターを利用した街の再発見とコミュニティづくりイベント「ラタくんのわくわくはざわラリー」を2月1日に開催した。羽沢南町内会に会場提供、広報などで協力いただき、YNU HAZAWA BASE、羽沢南町内会館、まちのはらっぱの3か所で、クイズ、スポーツ、フォトラリーの3種類を行った。羽沢地区住民に事前アンケートを取り、「羽沢の街は、必要な場所にしか行かない」「近所の人々との交流があまりない」という課題を上記イベントで解決する目的で行われた。活動の様子が羽沢南町内会のHPに掲載された。<https://rarea.events/event/250130>

2 | 令和7年度の活動がもたらした地域への貢献

地域	番号	① マニュアル等	② 提言	③ 情報発信	④ 拠点での地域活動	⑤ 地域実践活動(④以外)	⑥ ネットワーク構築	⑦ その他
横浜都心エリア								
新湘南エリア								
羽沢エリア				○		○		○
県西エリア								
その他								

- ⑤ 上記②のイベントを行い、地域課題解決、コミュニティ構築のきっかけ作り、街のものごたりの（再）発見を促進させた。羽沢南町内会と連携した。
- ⑦ 羽沢、保土ヶ谷、上星川地区のものごたりについて昨年度行ったインタビュー調査結果と分析を、研究ノートとして『常盤台人間文化叢論 11』に発表した。

3 | ホームページアドレス等

<https://popular.ynu.ac.jp/>

4 | 主要連携先

- 常盤台地区連合町内会
- 羽沢南町内会

UNIT
15

子どもの成育環境デザイン

事業の総括責任者 ● 田中 稲子 都市イノベーション研究院

学内分担者・
学外協力者

- 泉 真由子 理事（副学長）・教育学研究科
- 橘高 佳恵 教育学部・准教授
- 種市 慎也 都市イノベーション研究院
- 松橋 圭子 東京都市大学人間科学部・准教授
- 船場ひさお 駿河台大学・教授
- 片岡 寛子 電気通信大学・特任准教授
- 野口 紗生 浜松学院大学地域共創学部・講師
- 小西 恵 一社 園 Power
- 村上 和子 一社 園 Power
- 伊藤 弓子 社会福祉法人あおい会・理事長
- 大竹みどり 杜ちやいんど園・園長

1 | 令和7年度の活動内容

昨年度末に行った療育施設調査の結果を踏まえて、対象施設の湿気環境や音環境の問題の解消策についてユニット内で検討を行い、複数の対策を提案した。その後、工事を伴わない応急的な対策が採用され、顕著な問題は解消されたことを確認した。また、2026年2月18日にYNU BASE HAZAWAにて屋外の子どもの成育環境に着目して、都市の暑熱化や騒音影響をテーマとする公開勉強会を開催し、情報発信を行った。

2 | 令和7年度の活動がもたらした地域への貢献

地域	番号	① マニュアル 等	② 提言	③ 情報発信	④ 拠点での地 域活動	⑤ 地域実践活 動(④以外)	⑥ ネットワー ク構築	⑦ その他
横浜都心エリア						○		○
新湘南エリア								
羽沢エリア				○				
県西エリア								
その他				○				○

③ 屋外の成育環境（熱環境・音環境）に関する公開勉強会の開催（ハイブリッド開催）

- ⑤ 療育施設 1 件の湿度環境等の改善提案
- ⑦ 関係学会公表 4 件

<学会公表資料>

- 1) 額田菜摘, 大西達也, 胡怡賢, 田中稲子, 松橋圭子: 都市部に開設する小規模の保育施設の空気環境計画のための標準モデルの構築に関する研究 その 1: アンケート調査による施設情報・換気行為の実態把握, 日本建築学会学術講演梗概集, pp.1367-1368, 2025.9
- 2) 大西達也, 田中稲子, 胡怡賢, 種市慎也: 都市部に開設する小規模の保育施設の空気環境計画のための標準モデルの構築に関する研究 その 2: マンション併設型の空間・換気行為・活動の標準化, 日本建築学会学術講演梗概集, pp.1369-1370, 2025.9
- 3) 胡怡賢, 大西達也, 田中稲子, 種市慎也: 都市部に開設する小規模の保育施設の空気環境計画のための標準モデルの構築に関する研究 その 3: CFD 解析を用いたマンション併設型施設の換気計画, 日本建築学会学術講演梗概集, pp.1371-1372, 2025.9
- 4) 稲永拓真, 田中稲子, 片岡寛子: 幹線道路に近接する複合型保育施設の窓開け換気と騒音侵入による複合環境問題の考察, 日本建築学会学術講演梗概集, pp.2415-2416, 2025.9

3 | ホームページアドレス等

- 地域連携推進機構 HP 内

<https://www.chiiki.ynu.ac.jp/nexturbanlab/000549.html>

4 | 主要連携先

- 社会福祉法人あおい会等
- 横浜市内を中心とする保育施設

UNIT
16

新音響文化研究会

事業の総括責任者 ● 中川 克志 都市イノベーション研究院

学内分担者・
学外協力者

- 樽沼 範久 都市イノベーション研究院
- 平倉 圭 都市イノベーション研究院
- 須川亜紀子 都市イノベーション研究院
- Nick Luscombe アーティスト
- 西原 尚 アーティスト

1 | 令和7年度の活動内容

今年度は以下の内容の活動を展開した。

2025年6月28日 Nick Luscombe さんによるフィールド・レコーディングのワークショップ

2025年度秋学期音響文化論演習：西原尚さんによるサウンド演習

2026年2月6日西原尚さんによるワークショップ：「音響散歩学試論：西原尚さんとサウンドウォークをする」

NULは人件費の一部に用いた。不足財源（人件費と物品費）は、部局長裁量経費と中川克志の一般財源から補填した。

2 | 令和7年度の活動がもたらした地域への貢献

地域	番号	① マニュアル等	② 提言	③ 情報発信	④ 拠点での地域活動	⑤ 地域実践活動(④以外)	⑥ ネットワーク構築	⑦ その他
横浜都心エリア								○
新湘南エリア								○
羽沢エリア		○			○			
県西エリア								○
その他		○			○			

3 | ホームページアドレス等

- 新音響文化研究会 <https://sites.google.com/view/soundstudies/>

4 | 主要連携先

- 中川克志：katsushinakagawa@ynu.ac.jp

UNIT
17

プラネタリー・ヘルスユニット

事業の総括責任者

● 藤掛 洋子 都市イノベーション研究院

事業の分担者・
連携研究員・
学外協力者

- 勝地 弘 都市イノベーション研究院
- 比嘉 紘士 都市イノベーション研究院
- 小宮 正安 都市イノベーション研究院
- 長谷川秀樹 都市イノベーション研究院
- 平野 恵子 都市イノベーション研究院
- 安部 遼祐 都市イノベーション研究院
- 藤岡 泰寛 都市イノベーション研究院
- 石川 正弘 環境情報研究院
- 堀内かおる 教育学部学校教員養成課程家政教育
- 杉山久仁子 教育学部学校教員養成課程家政教育
- 池島 祥文 国際社会科学研究院
- 佐土原 聡 横浜国立大学名誉教授
- 橋口奈奈穂 都市イノベーション研究院

1 | 令和7年度の活動内容

令和7年度の活動は、羽沢エリアと南米パラグアイ他で行った。

羽沢エリア・神奈川県菅笹山団地（*）：地域課題実習やNPO（**）、民間企業、神奈川県、横浜市保土ヶ谷社会福祉協議会他と連携し、子どもの居場所：えんぴつルームにおいてフードロスへの取り組みを通じた食支援活動を行った。また、地域にある資源（落ち葉、ダンボールなどのリサイクル資材）を活用した子どもたちとのワークショップなどを通し、コミュニティとの共生の在り方を模索した。また、学生主体の防災ワークショップを開催し、高齢者の方々や外国につながるの方々との意見交換も行った。2024年度に引き続き2025年度もイスラム圏の方を対象にハラール食の提供について検討を継続している。

地球環境と人間の健康の両立のための活動に取り組み、それらの成果を書籍『プラネタリー・ヘルスから都市を考えるー都市・環境・人間をめぐる複眼的アプローチ』を明石書店より出版した。その書籍の中の「はじめに」と第一章「プラネタリー・ヘルスの観点から子どもの居場所を考えるーパラグアイ農村の経験を起点とした横浜における知と実践の共創」において、本ユニットの成果をとりまとめた。

南米パラグアイ：横浜国立大学 XJICA 草の根技術協力プロジェクト：『パラグアイ共和国複合的農村開発プロジェクト～アグツーリズムの展開に向けて～』は本ユニットとの親和性が極めて高いことから、継続して取り組みを行った。アスンシオン国立大学、カアグアス国立大学、NihonGakko 大学と連携した現地での活動では横浜国立大学大学院都市イノベーション学府生、都市科学部生が現地を訪問し、食と健康についての講座を行ったり、観光開発のための地図作りや民泊体験などを通じたプラネタリー・ヘルスの実践を行ったりした。

報告書・論文：都市イノベーション学府学生、都市科学部生がそれぞれ本ユニットの研究テーマの中で報告書の準備を行うとともに、博士論文、学士論文の執筆を準備している。

*対象となる笹山団地は、築58年目の県営団地であり、高齢化、外国につながる方々との共生の困難さなどの諸課題がある。2020年度よりこの団地の一室で子どもの居場所活動を開始し、今日では地域に活動が認知されるとともに、外国につながる子どもたちの参加も増加してきた多くの企業、地域のアクター、地域住民の方々より支援を頂いていることに記して感謝の意を表します。

【***刊行物・国際シンポジウム等】

藤掛洋子・石川正弘・三浦倫平・及川敬貴・田中伸治・藤岡泰寛編著（2026）「プラネタリー・ヘルスから都市を考えるー都市・環境・人間をめぐる複眼的アプローチ」明石書店。
 藤掛洋子（2026）「プラネタリー・ヘルスの観点から子どもの居場所を考えるーパラグアイ農村の経験を起点とした横浜における知の共創」、藤掛洋子他編著（2026）『プラネタリー・ヘルスから都市を考える』、明石書店 pp.18-47。
 Fujikake, Yoko (2025) "Hacia la contribución de la universidad a la comunidad local "El rol de las universidades en la igualdad de género en zonas rurales del Paraguay" *Simposio Internacional* (San Lorenzo, Asunción, Paraguay, 1 de Septiembre, 2025) .

【***学生の研究論文】

片桐綾乃（2026）『横浜市 A 団地におけるアクター間関係の構造分析 — 協働的地域再生に向けた課題と展望 —』、横浜国立大学都市科学部卒業論文。
 原口瑞稀（2026）『食と農の再接続を巡る地域循環型食料システムの意義—「顔が見える関係」に基づく食料システムの検討—』、横浜国立大学都市科学部卒業論文。
 陳宇翔（2026）『現代中国における昆虫食文化の持続要因とその受容性に関する研究 — 広東省の食文化と消費者嗜好の視点から—』、横浜国立大学先進実践学環修士論文。

2 | 令和5年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	① マニュアル等	② 提言	③ 情報発信	④ 拠点での地域活動	⑤ 地域実践活動(④以外)	⑥ ネットワーク構築	⑦ その他
横浜都心エリア							
新湘南エリア							
羽沢エリア		○	○	○		○	○
県西エリア							
その他			○			○	○

3 | ホームページアドレス等

- 笹山団地で実施している子ども食堂について
<https://www.facebook.com/search/top?q=%E7%AC%B9%E5%B1%B1%E3%81%88%E3%82%93%E3%81%B4%E3%81%A4%E3%83%AB%E3%83%BC%E3%83>

%A0%E3%80%90%E6%A8%AA%E6%B5%9C%E5%9B%BD%E7%AB%8B%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E8%AA%B2%E9%A1%8C%E5%AE%9F%E7%BF%92%20%E3%83%9F%E3%82%BF%E3%82%A4%E5%9F%BA%E9%87%91%E3%80%91

- 地域課題実習動画

<https://www.youtube.com/watch?v=DLyJieXKZFc>

- 横浜国立大学 XJICA 草の根技術協力事業：パラグアイ共和国複合的農村開発プロジェクト～アグリツーリズムの展開に向けて～

<https://paraguay-mujer.com/>

4 | 主要連携先

- 神奈川県県土整備局建築住宅部
- 横浜市保土ヶ谷区社会福祉協議会
- 笹山自治会、笹山地区社会協議会
- (株) ジャンボリア
- NPO 法人ミタイ・ミタクニヤイ子ども基金他
- 横浜国立大学 XJICA 草の根技術協力事業「パラグアイ共和国複合的農村開発：アグリツーリズムの展開に向けて」プロジェクト

UNIT
18

常盤台まちづくり応援団

事業の総括責任者 ● 藤岡 泰寛 都市イノベーション研究院

学内分担者・
学外協力者 ● 大原 一興 学長特任補佐
● (学外) 古城 高之 常盤台地域ケアプラザ所長
● (学外) 石川 源七 常盤台連合町内会長

1 | 令和7年度の活動内容

2008年度から始めたワークショップは、今年2月で70回を迎える予定である。令和7年度は多世代が交流できる小さな居場所を増やしていくきっかけとなることを目指して、公式なワークショップを5回開催した。このうち10/11(第68回)と10/18(第69回)はそれぞれ「ときわ学びフェス」「はざわ学びフェス」として、先生役となる人を地域で募り、講座形式のイベントを開催した。NULとしても参画している「羽沢横国まちづくり協議会」で取り組んできたまちづくりプランは令和6年度末に正式認定され、令和7年度からはプランの実行段階に移行している。たとえば、「サイン」とよばれる常設型の地域情報媒体(道案内や地域の魅力案内板)については令和7年9月以降に具体的に設置が始まった。そこで、設置されたサインをめぐるまちあるき講座を「ときわ学びフェス」「はざわ学びフェス」の講座としても位置づけて実施した。

2 | 令和7年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	① マニュアル等	② 提言	③ 情報発信	④ 拠点での地域活動	⑤ 地域実践活動(④以外)	⑥ ネットワーク構築	⑦ その他
横浜都心エリア							
新湘南エリア							
羽沢エリア		○	○	○		○	○
県西エリア							
その他							

- ② 認定後のまちづくりプラン実践をまちづくり協議会で取り組んでいる。特にサイン設置に際しては、必要に応じて保土ケ谷区、神奈川区、および本学施設部との協議をすすめている。
- ③ 羽沢横国まちづくり協議会の広報「地域まちづくりニュース」を作成し、全戸配布している。
- ④ 協議会とは別に、ワークショップを5回、常盤台地域ケアプラザ・コミュニティハウスで開催した。
- ⑥ まちづくりプラン認定後、まちづくり協議会が再編された。「国大連携委員会」が新たに設

置され、広報関係やサイン関係、ワークショップ関係などについては、他の委員会と情報共有しながら活動している。

- ⑦ 建築学科3年生の演習課題で、ワークショップと連動してサイン設置後のまちの魅力を再発見するツアーの提案を行った。提案されたツアー企画については、令和8年度のワークショップ等で実際に試行する予定である。

3 | ホームページアドレス等

なし

4 | 主要連携先

- 常盤台連合町内会
- 羽沢（南部、第一、星ヶ丘）町会
- 常盤台地域ケアプラザ・コミュニティハウス
- 常盤台小
- 上星川小
- 羽沢小
- 保土ヶ谷中
- 横浜市
- 保土ヶ谷区
- 神奈川区

UNIT
19

みなとみらい21地区における脱炭素まちづくり

事業の総括責任者 ● 吉田 聡 都市イノベーション研究院

学内分担者・
学外協力者

- 稲垣 景子 都市イノベーション研究院
- 田中 稲子 都市イノベーション研究院
- 佐土原 聡 横浜国立大学名誉教授
- 佐藤 茂 みなとみらい21熱供給(株) 常務
- 西田 晃 みなとみらい21熱供給(株) 経営企画部
- 後藤 吉博 みなとみらい21熱供給(株) エンジニアリング部

1 | 令和7年度の活動内容

令和7年度は、みなとみらい21(株)とみなとみらい21地区の脱炭素化に向けた課題や適応技術等について、意見交換の場を3回(5月、9月、3月(予定))もち、昨年度に引き続き、地球温暖化(暑熱化)による地域冷暖房システムへの影響と適応策についての研究を実施し、冷却水出口温度の上昇による熱製造効率の低下を確認するとともに、適応策の検討を開始した。また、みなとみらい21地区の熱供給を受けている建物・施設に対して、「地震対策に関するアンケート調査」を実施し、災害時の地域のエネルギー供給確保の観点からみなとみらい熱供給の行っている地域熱供給のあり方の検討を行った。

さらに、都市イノベーション学府講義「グリーンビルディング・コミュニティ計画論」と連携して、みなとみらい21地区の地域熱供給プラント見学会(参加学生数50名)を開催した。

2 | 令和7年度の活動がもたらした地域への貢献

地域	番号	① マニュアル等	② 提言	③ 情報発信	④ 拠点での地域活動	⑤ 地域実践活動(④以外)	⑥ ネットワーク構築	⑦ その他
横浜都心エリア		○		○				○
新湘南エリア								
羽沢エリア								
県西エリア								
その他								

- ①③ 暑熱化による地域冷暖房システムへの影響を評価し、適応策の検討を開始した。
地域熱供給需要家建物に対して、「地震対策に関するアンケート調査」を実施し、連携機関とともに災害時の地域のエネルギー供給確保についての検討を開始した。
- ⑦ 学生を対象に「みなとみらい21地区における脱炭素の取組み」に関する講義、および「み

なとみらい21 地区地域冷暖房プラント」見学会を行った。

3 | ホームページアドレス等

なし

4 | 主要連携先

- みなとみらい21 熱供給株式会社

UNIT
20

イノベーション創出を目指す学生の 地域連携活動のプラットフォーム

事業の総括責任者

- 為近 恵美 地域連携推進機構（成長戦略教育研究センター）

学内分担者・
学外協力者

- 木内 恵子 地域連携推進機構（成長戦略教育研究センター）
- 山田 敏哉 同上
- 湯沢 雅人 同上
- 小清水 実 先端科学高等研究院
- 前田俊太郎 TOPPAN デジタル（株）
- 盛一 志仁 ソニー株式会社
- 永崎 将利 SpaceBD（株）

1 | 令和7年度の活動内容

学生によるイノベーションの創出を目指し、学生を主体とする活動基盤「イノベーションプラットフォーム（略称：i-Plat）」を提供、その運営および学生の活動に対する支援を行った。その根底には、地域や社会の課題を発見し、解決したいという思い、そして解決策の模索と具現化を押し進める体制が必要との考えがある。また、活動全体の集約と地域との意見交換の場として、かながわ起業家教育推進協議会に参加している。

今年度も学生は従来のi-Platにおける活動と同様、テーマ毎にチームを結成し、それぞれ下記の活動に取り組んだ。加えて、各チーム間の協力によるイベントや、企業との新たな意見交換の場も生まれた。

■ VR データ設計技術による価値の創出

学部・学府をまたがる学部生・大学院生による連携を主体として、理工系・都市科学系メンバーが各々持ち寄る技術シーズを活かした YNU-VR マップの作成を継続、その利用シーンを探りながら VR データ設計技術による価値の創出を模索した。

〔活動内容〕

- YNU-VR マップの利用者の利便性を高めるためのスマートフォン用アプリケーションを開発・公開
- 中学生を対象とした起業家養成プログラム「AOKI 起業家育成プロジェクト」（主催：AOKI 財団）の一環で当センターが開催した特別活動（6月15日開催）において、受講生12名にアプリケーションとVRゴーグルを使用して仮想空間を体験するプログラムを提供、用途の拡張可能性について解説した。

■日本の科学力の強化に向けた子供たちの学び&体験の場の創出（CurioSeeds）

「好奇心の種をまく」ことを目的とし、理工系分野の面白さを子供たちや保護者世代に広め、後進を育成することへの貢献を目指して、子供たちの学び&体験の場を創出、自然の奥深さや生命の尊さを学ぶフィールドワーク、身近に存在する疑問やワクワクするようなテーマでの面白実験など、理科や科学に対する興味を喚起する活動を通して、小中高生が探求心を持つきっかけ

くりに取り組んだ。

〔活動内容〕

- 小学生向けの科学実験教室や自由研究イベントを各所で開催し、子供たちの学び&体験の場を提供
 - ・ハカセと五感を科学してみよう！ [湘南アイパークフェスタ] (5月24日)
 - ・みんなの居場所！～巻き寿司&香水づくり～ [河原自治会館（大井町）] (6月15日)
 - ・夏休み自由研究！パスタブリッジから学ぶ構造力学！！ [藤沢青少年会館] (7月20日)
 - ・夏休み宿題フェスティバル in スカイガーデン [横浜 LMT] (8月3日・17日)
 - ・落としても割れない最強たまごカバーを作る！ [常盤台キャンパス] (8月8日)
 - ・五感で科学！オリジナル香水づくり [はまぎんこども宇宙科学館] (8月30日)
- 中高生から大学2年生までをスコープとしたキャリア設計イベントや県立高校の出張講義などで大学での学びや研究について講演
 - ・勉強は何のため？～学びの先にある未来へ～ [オンライン] (5月11日)
 - ・研究テーマをどう決める？ [神奈川県立希望ヶ丘高等学校] (11月)
 - ・未来の研究者たちへII～博士学生の今と未来～ [軽金属学会] (11月8日)
- 自治体と連携し、学内において小中学生向けイベント（2026年3月14日予定）
 - ・「保護者と一緒に！子どもミライ教室～香水作り実験&大学教授・大学院生とお話し会～」子ども向け科学教室を学生が担当し、保護者向けセミナーをセンター教員が担当。

2 | 令和7年度の活動がもたらした地域への貢献

地域	番号	① マニュアル 等	② 提言	③ 情報発信	④ 拠点での地 域活動	⑤ 地域実践活 動(④以外)	⑥ ネットワーク 構築	⑦ その他
横浜都心エリア						○	○	
新湘南エリア			○	○		○		
羽沢エリア								
県西エリア						○		
その他								

3 | ホームページアドレス等

- <https://www.cseg.ynu.ac.jp/act/nexturbanlab/>
- YNU-VR プロジェクト：<https://vryokokoku.studio.site/>
- CurioSeeds：<https://curioseeds.com/>

4 | 主要連携先

- ディアベリー株式会社：<https://deervery.com/>
- 株式会社ぐるり：<https://gururi-lp.com/>
- 横浜未来機構：<https://yoxo-o.jp/>
- 神奈川県（起業家教育）：<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/sr4/kigyouka.html>
- かなテラス：<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/x2t/top.html>

UNIT
21

デジタル・ストーリーテリング(DST)を活用した外国につながる生徒支援

事業の総括責任者 ● 半沢千絵美 国際戦略推進機構

学内分担者・学外協力者 ● 寺尾 綾 国際戦略推進機構 非常勤講師
● 山森 理恵 国際戦略推進機構 非常勤講師
● 加藤真帆子 横浜市立横浜総合高校非常勤講師
多文化教育コーディネーター（多文化教育ネットワークかながわより派遣）

1 | 令和7年度の活動内容

令和7年9月22日、24日、25日に横浜市立横浜総合高校にて、デジタル・ストーリーテリング(DST)プロジェクトを実施した。本学からは留学生を含む6名の学生(学部生・大学院生・交換留学生)がサポーターとして参加、4名の外国につながる横浜総合高校生の動画作品作りを支援した。本活動では、サポーターと高校生とが対話を重ねるプロセスを経て、高校生が伝えたいことを動画作品を通して表現できるようになることを目指した。高校生も、サポーターとして参加した本学学生も多様な背景を持っており、それぞれの個性を生かした実践が実現できた。

2 | 令和7年度の活動がもたらした地域への貢献

地域	番号	① マニュアル等	② 提言	③ 情報発信	④ 拠点での地域活動	⑤ 地域実践活動(④以外)	⑥ ネットワーク構築	⑦ その他
横浜都心エリア								○
新湘南エリア								
羽沢エリア								
県西エリア								
その他								

本活動は横浜都心エリア(横浜市南区)で行った地域実践活動である。新規プロジェクトとして横浜市立横浜総合高校と連携して活動の企画・実践を行った。

3 | ホームページアドレス等

- DST プロジェクトに関するホームページ
<https://dstynu.my.canva.site/>

4 | 主要連携先

- 横浜市立横浜総合高校



YNU 横浜国立大学
YOKOHAMA National University
地域連携推進機構

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-5
TEL: 045-339-4455 FAX: 045-339-3057

WWW.chiiki.ynu.ac.jp